

PTAの不思議☆あれこれ



- 今年は、県立高校PTAの会長をしている。委員会は研修、広報、生徒指導の3つ。生徒指導委員会は、電車通学しているので最寄りの駅とか、電車に乗って指導をしているらしい。その交通費を援助してくれという話があった。研修委員会は、川越小旅行！ 今年はそれをやめて、バスをチャーターして近隣の大学と専門学校、短大の見学に行った。でも参加者は研修委員だけ8人くらい。通知表を保護者宛に郵送してくるのだから、それにお知らせを同封すればいいのに、子どもを通して渡しても子どもは親に渡さない。広報紙は年2回発行されている。でも、子どもが持って帰ってこない！ 広報紙も通知表と一緒に送ってほしいと思う。
- 懇談会がないんですよ。学年保護者会が年に2・3回あって、その後各クラスに分かれて保護者会があるのだけれど、私のクラスは2・3人しか出席しない。高校の保護者会の出席率は悪いですね。個人面談は皆ちゃんと行くのですが。学年保護者会ではとてもいい話を聞いた。高校生だと携帯電話をみんな持っているけれど、携帯電話を使う際の危険性を親も知ってもらいたいという話を聞いた。
- うちの高校は統廃合でなくなる。統合先の学校に冷房を入れてほしいということもPTAとして発議したいと副会長が言った。私は冷房要らないと思っているのだけれど。どこの高校もPTAのお金で冷房を入れているらしい。
- なぜPTAがお金を出さなくてはいけないのか。市川市で小・中学校に冷房を入れたのは公費で、市がちゃんと予算をつけて出したのでしょうか？ 高校でも冷房が必要だと思うのなら、そういう要望をPTAで出せばいい。
- 年に4ヶ月くらい冷房を使うから、その電気代まで入れて頭割りすると一人当たり700円くらいになるらしい。
- うちの高校は統廃合までにPTA会計の残額を全部使い切ってしまうということになっている。ちょうど周年行事もあることだからと、その周年行事に400万円も使う。PTAとしてはそのうち100万円を出す。
- 高校PTAって何なのか？と思う。
- 高校は遠いから、親も頻りに集まらない。PTAとして何かやろうという気になかなかない。地元だともうちょっと頻りに顔を出して、エネルギーを注ごうという気にもなるのだけれど。
- 知らない人ばかり！
- 以前、高校PTAの総会に出た時に感じたのだけれど、役員と校長たちが仲がよくてナアナアなのよ。いろいろ意見を言っても、「どうして総会でそんな発言をするの？」のような目をして見られる。



周年行事には何の意味があるのだろうか？

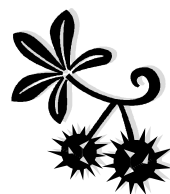
- うちの中学は、PTAではなく、保護者と教職員の会。連Pにも入っていないし、全員が会員になるわけでもない。会費は集めていない。バザー委員会があって、バザーをやる。収入はバザーの収益金で、支出は部活動の援助金ばかり。会計報告は出るのだけれど、総額で出てくるのでよくわからない。今年私は会長になって初めて通帳を見たら、60万の残高があった。「こんなにあるんだったら、今年は講演会をやったらいいのではないか、もともと講演会をやるために始めたことなのだから」と言ったら、「来年周年行事もあるので、それにも使いたい」と教頭が答えた。
- 周年行事なんかしなくたっていい。
- ある小学校では、周年行事のための積み立てをしている。
- 一度積み立てを始めると、なかなかやめられない。
- 最初の目的がどんどん変質して行って、本末転倒になってしまう。途中からどんどん方向が変わって行って、何のためのPTAかわからなくなってしまふ。
- 周年行事には何の意味があるのだろうか？ 在校生にとっても、創立何年かということとは関係ない。子どもたちは限られた時間しか在校しない。
- 地域の学校という意識が強いのだろうか。公立の学校であっても創立時に地域の人たちが尽力、寄附などを行っているのか。自分たちが作った学校だという意識が強いのかもしれない。
- でもだからと言って、周年行事と結びつかない。
- 子どもたちのよりよい教育環境をと願って学校を作った、その思いを伝えていくための行事として行なうのなら、やる意味もあるだろう。



地域に開いていくために、子どもの居場所がなくなっていくのでは本末転倒

- 地域に開かれた学校ということで、学校行事に地域に人を呼んでいく。地域の人がボランティアとして学校に入ってくる。
- ボランティアが校庭の色々な場所に花壇を作っていく。子どもたちが飛び跳ねて、かくれんぼするような場所まで花を植えていってしまう。ボランティアと称すれば何でもいいというわけではない。学校は子どもの居場所であって、ボランティアのための場所ではない、そこを区別して考えていかないと。地域に開いていくために、子どもの居場所がなくなっていくのでは本末転倒。学校のそういう空間を楽しみにしてきている子どももいるはず。ズカズカ土足で入り込まれるような地域に開かれたやり方って、ちょっと違うと思う。
- お母さんたちも「ああ、そうですか」とただ従っているだけではなくて、「これどういうことだろう」と考えた方がいいと思う。池田小の事件の後、見守りボランティアと称して、校門で子連れのお母さんたちも見ている。
- 見守りボランティアの人たちに何かあったらどうするのか。
- 今、子どもたちの安全のために何かをやっています、ということをとにかくやりたいわけ。「さすまたを買いました」とか、「休憩時間に子どもたちに教えています」とか、「地域の高齢者をお願いして見守ってもらっています」とか。

- 危機管理をちゃんとやっていますというのを出さなくてはいけないのか。どういうことが危機管理なのかということを実際に議論していない。
- 「これが本当に危機管理になるのか」という疑問を感じても、それを出せない。どんな素朴な疑問でも、PTAの中で出せるようにしないと。
- どうやったら子どもを守れるのかという議論もせずに、「パトロール中」という札一枚自転車にぶら下げても何もならない。そのことをPTAの中に根付かせていかなくてはならない。
- PTAで行なわれている学区内のパトロールというのは、往々にして監視・排除の視点になってしまう。
- 私が校外委員になった時、パトロールはやめようという意見を出したのだけれど、なかなか一致できなかった。それならば何を見ていくのか、意思統一しようと。学区内の公園の遊具の点検や、通学路の安全、例えばガードレールやカーブミラーが破損していないかを点検する。子どもが学区内で安全に過ごせるかを見ていこうということで、意思統一した。次年度への引きつぎノートも細かく書いて作成した。
- 死角マップとか、ここに横断歩道がほしいとか、歩いて気がついたことを出し合って、運営委員会に報告する。そしてPTAとしていろいろなところに働きかけて横断歩道をつけたり、信号機をつけたり、そういう努力は子どもたちの安全につながるからやろう。そういう基盤はつくった。
- 以前、市役所の公園緑地課や道路維持化の人、警察の人、町会の人にも学校に来てもらって、一堂に会して学区内のいろんな問題を話し合ったらしい。それはとてもいいと思う。
- 今年から授業時数が増えて、子どもたちの下校時間がさらに遅くなった。内の学区は木が茂って薄暗い場所が多くて、痴漢が出没する場所もある。そんな場所に町会の男性が子どもの下校時間に合わせて立っているのだけれど、それは理解できる。地域の状況がどうなっているかを皆が知った上で、必要と感じたらそれは対策を考えるべきだと思う。ただ闇雲にパトロールすればいいということではない。
- 学区内の危険箇所は大人も知っておくべき。
- パトロールをするという以前に、もっと別の対策を立てることで解決できることもあると思う。大人が立っていれば安全ということではないはず。
- 子どもにも学区内の危険箇所を親がきちんと教えることが大切。



**PTAの方針、目的をしっかり持っていないと、
柔軟に運用するというのはとても難しい**

- 以前自分がPTAに関わっていた時に、会則のおかしいところを指摘したり、会則のどっどっきちっとやることを意識したりきたが、それをやり過ぎたのではないかと反省もある。杓子定規になってしまって柔軟性に欠けたのではないかと、日常的な活動を充実させてそこから委員になっていく人たちを生み出していくことが大切なのではないかと。それが足りなくて、形式的な活動になってしまったのではないかと反省している。
- 大内さんに言われたことがあります。ひょうたん型のPTAになってしまうと。多くの会員がやってみたいと思えるような雰囲気作りも必要。会則をしっかり読んでみると、

あいまいに書いてあるところが多い。そのあいまいさを利用していかないと柔軟に出来ない。会則をどう解釈するかが大事。

- 会則には委員の人数も決まっています、クラスから 1 人ずつと書かれていれば、二人でやりたいと言われたときに、会則に従って頑なに一人以上出させなかった。
- ウチはその規定を変えた。
- 会則を変える時に、ここだけはきちっと守るという決して変えてはいけないところと、状況に合わせて柔軟に変えていくところと見極める必要がある。会則を変えなくても柔軟に運用できるところは、そうしていく。
- ここだけは変えてはいけないというPTAの本質的なところを押さえていないと、いつのまにか本来のPTAのあり方までぐちゃぐちゃになってしまう。
- PTAの方針、目的をしっかりと持っていないと、柔軟に運用するというのはとても難しい。
- 中学校PTAに関わった 3 年間、ずっと会則改正に取り組んできた。そのための特別委員会を設置して議論してきた。特別委員会の議論を運営委員会で報告してもらって、運営委員会でも議論した。
- 組織を変えていこうと一生懸命やってきたけれど、どうしてそのように変えたのかということが受け継がれていかないところがある。
- PTAは 1 ミリの前進、1 ミリの後退だから。あんまり大きく前進してしまうと後退も大きい。



教育とは何か、学ぶとは何かということを問い返す姿勢がないと、いくら会則どおりにやってもPTAは薄っぺらなものになってしまう。

- いい組織があっても、いい会則があっても、そこに関わる人の意識が変わらなないと。
- 会則改正のための特別委員会を作ったことで、会則をしっかりと読み直す作業ができた。
- 問題を指摘する側とそれを受け止める側が、意見がどこかで合致した時にすごいエネルギーができる。
- 受けて立つ側の人間がいないと議論にもならない。
- 会員の問題提起を受け止めるのがルール。それを話し合いの場に持っていくのが役員会の仕事。
- 上の子が学校に行っていた時は、毎年のようにいろんな特別委員会が設置されていた。委員のなり手がいないとか、クラス数が減っているから委員会をどのようにするかとか、問題は今も同じようにあるはずなのに、なぜ設置されないのか。クラス数が減って委員の人数が減ってきたのなら、委員会の仕事を見直そうとか、どうやって皆で分担しようとか、そういう議論をせずに、もうやらなくていいやという雰囲気になっていて、楽な方向に流れていく。
- 選考委員会が「役員のなり手がいないから、どうしたらよいかを考える特別委員会を設置してほしい」という声を毎年出してきていた。それも受け止めて会則改正の特別委員会を設置した。
- 教育とは何か、学ぶとは何かということを問い返す姿勢がないと、いくら会則どおりにやってもPTAは薄っぺらなものになってしまう。

- そこがPTAの本質。何のためにPTAができたのかというところを押さえていない。
- 世の中おかしいと感じる感性が大事。そういう感性をどう育てるか。どういう環境によって育ったかで違ってくる。PTAはいろんな感性の集まり。
- 下総基地の問題でもPTAで署名活動をしたことがあるけれど、子どもにとっても、そこに住んでいる人にとっても危険だと思ったから、取り組んだ。栄養士の配置についても署名活動をした。わが子が危ないと感じると、皆で取り組める。でも今は、わが子が危ないとなるとパトロールというような方向へ行ってしまう。
- 今は、自分で解決しようとするところがある。
- 全体の問題としてとらえて、署名活動する。松戸版教育改革の時にも、連Pとして署名活動しようと働きかけたけれど、その当時の連P会長に「そんな力ないですよ」と一蹴された。
- そういう力を持っているのが連Pではないか。連Pが動けば行政も変わる。



成果というのは、目に見えるものばかりではない

- 何でも話し合える、どんな素朴な疑問でも出し合える、そんな雰囲気をつくるだけでも、PTAの構成メンバーが変われば雰囲気もすぐ変わってしまう。
- こういう取り組みをすれば、こういう仕組みを作っておけば、みんなの意識が受け継がれていくというような特効薬があればいいのに。
- 私が特効薬だなぁと思ったのは、委員研修会。これだけは毎年やってほしいと思うのに、なくなってしまった。
- 残してほしいものを削っていってしまう。大抵のことは前年度の踏襲なのに。
- 年に1回行なう総合懇談会。クラスの垣根を越えて、全体でいろんな問題を話し合う場。いろんな疑問が解けるし、自分だけではないんだとわかるし、普段の学級懇談会では語れないことも語り合えるし、テーマを決めながらやっていくのはとてもいいこと。新しくPTAに入ってきた1年生のお母さんたちに常に視点を当てて取り組む。わかりきっている人も、わかっていない人も一緒になって話し合える場になれば、肩の荷も下りる。
- 今、保護者会の出席率も悪い。
- 出席率は問題ではない。そこに来る気持ちがあれば、仕事の休みをとっても来る人がいる。
- いいと思うことは続けたいけれど、準備を一生懸命したらそれなりの成果をほしがる。こんなに準備をしたのに出席率が悪いなら、やめてしまおうかという声も出てくる。
- どうしたら出席率がよくなるかを考えなくてはいけない。早くから告知するとか、日程を考えると、いろんな意見を出してもらって、それを実行していく。
- 成果というのは、目に見えるものばかりではない。準備している人たちの中でのコミュニケーションがとれたり、計画・実行の方法を学んだりという、目に見えない成果がある。
- 目に見える成果にこだわってしまう。そうでないということに気づくためには年月がかかる。でも準備に直接関わった人たちは、皆やってよかったと言う。
- 関わらない人の方が、かえって目に見える成果にこだわってしまうのかも。

- 来年、日本PTA全国協議会の全国研究大会が千葉県で開かれる。この大会を開催するために、千葉県内の各PTAの分担金を増やしてほしいと県Pの会長が要請してきた。開催費用が1億円もかかるんだって。こんなご時勢に分担金を増やせなどといえないでしょう。そんなにお金をかけないとできないのならやめてしまえと言ったのだが。幕張メッセを会場として借りるからこんなにお金がかかる。キャンセル料を払ってもいいからキャンセルすればいい。もっとお金のかからない会場を使えばいい。どんなに反対の声を出しても通らない。
- 高校PTAの全国大会は、今年沖縄だった。やはり全国順番に持ち回りで開催する。参加費用は交通費を含めてPTA会計から出る。
- 高校の入学説明会の資料の中に、PTA会費を入学時に振り込んでくれと書かれていたので、おかしいじゃないかと書いてやった。PTA入会は任意のはず。入学してから入会の意思を確認するという手順を踏むべき。どうしてかと思ったら、クーラーをつけたいんだと。学校の設備にPTAがお金を出すのはおかしい。子どもがかわいそうだからとPTAがお金を出すのは絶対におかしい。
- ある小学校のPTAはバザーの収益で各教室に扇風機を買った。それで市から賞状をもらったらしい。
- 今のお母さんたちがどんな思いでいるのか、ぜひ聞いてみたい。
- 小学校PTAに入る時に、教育って何だろう、子どもにとってよい環境ってなんだろうということに目を向けて入ってきてほしい。
- 全会員を対象とした研修会をやることですね。
- 教育とは何か、PTAとは何かという、基本に関わるお話を聞ける機会をできるだけ作り、その講演のまとめを作る。そういう財産を作っていくことが大事ですね。